



工高タイムス

北海道旭川工業
高等学校新聞局
〒078-8804
北海道旭川市緑が丘
東4条1丁目1-1
発行人(局長)
佐々木 晃成
(電気科3年)

生徒
総会

全議案が承認

16の質問と要望に回答

生徒総会が5月14日7時開会に体育館で行なわれた。各クラスの前案審議が5月8日のLHRで行なわれ、6クラスから16の質問と要望が出て、生徒会長の高木風吹君(機3)と各委員長が回答した。

生徒総会の各議案についてすべてが承認された。

各クラスから「ジャージ登校を許可してほしい」「各委員会の活動を公にしてほしい」「トイレに芳香剤を置いてほしい」などの要望が出た。ジャージ登校については「就職した後でも身だしなみを整えるため制服登校にしている」、各委員会の活動については「各

委員会の活動はできる限り公にしている」、トイレの芳香剤については「予算が厳しいため今年は置けないが、来年度は前向きに考える」と回答した。

生徒総会については高木会長は「昨年は生徒の整列が遅かった



質問に答える高木風吹会長(機3)

ものづくり
コンテスト

情報技術科 エレクトロニクスを目標に プログラムを正確に打つ

情報技術科3年生の梶原春希君と2年生の香林秀明君、小林瑠生伽君は5月24日に札幌琴似工業高校で行なわれる第24回高校生ものづくりコンテスト全国大会北海道ブロック大会電子回路組立部門に出場する。練習は1月後半から

ものづくり
コンテスト

電気科 素早い作業を 入賞できるように頑張る

電気科2年生の安孫子恋君が5月22〜23日に釧路工業高校で行なわれる第24回高校生ものづくりコンテスト全国大会北海道ブロック大会の電気工事部門に出場する。練習は12月から週に3回、平日2時間半行なっている。競技内容は制限時間は2時間



電線をボックスに接続する安孫子君

半で、ケーブルやスイッチなどの取り付け方や金属管の角度を評価する。

安孫子君は「電気科の先生方に推薦されて出場を決めた。電気工事の作業が好きだからうれしかった」と話した。「短時間で素早く丁寧に作業を進められるよう精一杯努力を期待している。」

エールで鼓舞 声援が体育館に響く

壮行式

壮行式が5月23日3時間目に体育館で行なわれた。12の運動部と放送局、ものづくりコンテスト電気工事部門に出場する各部の部長が抱負や意気込みを語った。

中島泰彰校長先生は「これまで練習してきたことを緊張に負けずに出し切り、旭工魂を遺憾なく発揮してほしい」と選手たちを激励した。

壮行式を担当した監査副委員長の佐藤汐恩君(建3)は「応援委員のエールや校歌斉唱で選手たち

を鼓舞した、とても意義のある式になった」と話し「式自体はほとんど予定通り行なえたが、最初の整列のときに時間をかけすぎてしまったことが反省点」と語った。

菅原照太応援委員長(電3)は「練習時間が昼休みだけで短く、思うような練習ができなかった。本番では少し緊張したが、団員のみんなも声を出してくれて体育館中に声援を響き渡らせることができた。選手たちには最後まで頑張

り抜いてほしい」と応援した。

前打ち合わせをしなかったのが、今年がスムーズに整列できて良かった。生徒からの質問や要望への回答は分かりやすく話すように意識した。反省点は生徒会役員の間で事

電子回路組立部門

エレクトロニクスを目標に プログラムを正確に打つ

週に5回、平日2時間半行なっている。競技内容は制限時間2時間の2時間半以内に電子回路のはんだ付けをし、基板を組み立ててLEDやモーターの制御をするプログラムを製作して完成度を競う。課題通りに製作できているかどうかを評価される。

梶原君は「情報処理部に所属しプログラミングに興味を

持ったのでさらに経験を積みみたいと思いついた。思いがけずに出場を決めた。作業中は頭の中でイメージしたプログラムを正確に打ち込めるように意識している。初めての大会なのでまずは制限時間内に完成するように頑張る」と話した。



大会に参加する3人

小林君は「卒業した兄がものづくりに出場していたので興味があった。兄を越えられようという技術者磨こうと思いついて出場を決めた。もっと難しいプログラムを組めるように努力している。初めての大会なのでまずは制限時間内に完成するように頑張る」と話した。



私はゴールデンウィーク前半の4月28日に家族5人で土別に行った。最初は水郷公園へ行き、他の4人が遊んでいる時に私は一人で近くの天塩川で釣りをした。一匹も釣れなかったが、久しぶりに一人で過ごせて心の休まる時間になった。5月3日も家族5人で小樽水族館に行った。私は今回で3回目だが、弟2人が行きたいと言うので、家族5人で楽しんできた。この水族館の中で特に可愛いと思ったのがサメとエイだ。13時にトドショーが始まった。かなりの観客が押し寄せていた。その時に私の財布に触れた人がいて焦ったが、何も盗られなかった。トドショーでは5頭のトドがまず前足を体を叩いてから拍手で挨拶をした。次にトドは前足のみで体重を支える倒立をした。最後に約5メートルの高台に登り、飼育員の合図で海に飛び込んだ。迫力があり弟たちも喜んでいった。私は最近スケボーで遊ぶのが趣味だ。かっこいいからという単純な理由で中2から始めた。今年のゴールデンウィークから本格的に始め、オリジナル技のウェーブができるようになった。だが基礎的な技はまだあまりできないので、習得できるように精進したい。普段は家の前、休日は公園で練習し一人の時間を楽しんでいる。私は美化副委員長を務めている。前号でごみの分別について取り上げた。どのクラスでも改善されていると聞きうれしい。皆で旭工を良くしていこう。(化2杉野)

職場の先輩の声を聴く 旭工で得た知識生かす

24社が来校した企業説明会が5月7日に各学科で行なわれた。卒業生から仕事の内容や会社の雰囲気、福利厚生などを聞いた。3年生と2年生から感想やこれから取り組んでいきたいことを聞いた。

進路選択の参考に

進路指導部長の長谷川哲哉先生は「仕事のやりがいや卒業生が体験したことを伝えられて良かった。就職した先輩方の話を聞くのは貴重な経験

なので、進路選択の参考に就職試験に生かしてほしい。旭工では各学科の先生方が説明会に参加する企業を決めている。学校と企業の関係が非常に近く、卒業生がいるので就職後もすぐになじめるのが良いところだ」と話した。

人間関係を大事に

在学中に資格取得を

情報技術科は1年生と2年生は大会議室で、3年生は教室で札幌日信電子株式会社や住友電気工業株式会社など4社からネットワークの整備や地下鉄システムのメンテナンス

の仕事をなどについて説明を受けた。佐久田夏葵君(2年)は「就職後の資格取得に苦戦したので、在学中に取った方が

企業説明会



札幌日信電子の岩館智明さん

電気科

試験対策に力を

各社の福利厚生が分かる



北海道電気の佐藤弘哉さん

電気科は2年生は電気磁気実習室で3年生は自動制御実習室で東日本旅客鉄道株式会社や北海道電力ネットワーク株式会社など4社の卒業生から仕事内容や会社の特色などについて説明を聞いた。

安達凜君(3年)は「自分が働きたい企業の先輩から、

土木科

規模の大きい現場 地図に残る仕事を

土木科は3年生は応用力学実習室で2年生は土木科製図

仕事で必要になる資格や職場の雰囲気を聞くことができた。JR東日本がJR貨物に就職

したので、学習や生活はもちろん、面接やSPI試験の対策に力を入れていく」と意気込みを語った。

濱久史君(2年)は「様々な企業の福利厚生を理解でき

た。部活動に加入していると就職に有利だと再確認できた。電気工事の仕事がしたいので、

第二種電気工事士の資格勉強を頑張りたい」と語った。

建築科

積極的な行動を

道外への就職も視野に

建築科は2年生と3年生が建築科製図室で株式会社橋本川島コーポレーションや株式会社荒井建設など4社の卒業生から仕事の内容や給料、休日などの説明を受けた。



大成設備の樽井修斗さん

中にとっておきたい。休日は趣味に時間を当て、職場の人の関わりを持つことが仕事へのモチベーションにつながると分かった」と語った。

阿部圭悟君(3年)は「今から、あいさつを必ずすること、積極的な行動をすることなどの心構えを聞けてためになった。進学希望が気になった企業があった。就職は道内でも良いと思っていたが、知らない所で働きたいと思っているので東京などの道外も考えている。設計の仕事に就きたいので進学し、そこで学んでから仕事に就きたい」と話した。

機械への理解深める 成績の向上を目指す

電子機械科



NICHUOの向江優斗さん

成績を今よりも上げて、機械への知識や理解を深めていきたい」と話した。

電子機械科2年生と3年生はCAD実習室でトヨタ自動車株式会社や東洋設備株式会社など4社の卒業生から会社概要や業務内容、福利厚生などについて説明を聞いた。

池田歩夢君(3年)は「動画で実際の作業風景や使用している機械の細かな説明を受けた。完全週休2日制で年末年始やお盆シーズンは10日連続で休みがあり、年間休暇数が多いと分かった。また優しい先輩方が多いなど、職場環境の良さについて聞いて良かった」と語った。「道内企業に就職したいと考えているので、旭工で得た知識や経験を生かせる機械系の職種に就きたい。そのために取れる資格を取得し、

工業化学科

希望企業の詳細を知る 「乙4とボイラーを取ろう」

工業化学科は2年生と3年生が工業化学科製図室で北海道エネルギー株式会社や丸善石油化学株式会社千葉工場など6社の説明を受けた。

本多輝生君(3年)は「就



日本道路の須川怜さん

荻原魁大君(2年)は「4社の説明を聞き、土木の仕事

は規模がでかいと改めて感じた。現場の予算が2億円だったり、橋やダムなどの構造物を造ったりと興味深い話だった」と話し、印象に残ったことを「日本道路株式会社の社員旅行はタイで、支社ごとに社員同士で行なう楽しそうなイベントもあり、仕事を頑張れそうだなと思った」と語った。

土木科3年の生徒は「就職は管内のコンサルタントを希望している。具体的な企業は決まっていらないが、説明会でダイイチプランニング株式会社の話が聞けた。GNSS測量やドローンなどを聞いた測量や転勤の多さなど、将来の参考になる内容ばかりだった」と振り返った。

職を希望している出光興産株式会社北海道製油所の先輩から仕事の内容や勤務する時間帯などの詳細について聞けるようになった。危険物取扱者乙種4類やボイラー技士二級

などの資格を在学中に取得した方が良いと分かった」と語った。また「就職して自立するため親に心配をかけないように早起きができるように生活の改善を意識している。出光の就職試験には苦手な作文があるため、国語科の先生に書き方やコツなどのアドバイスを聞いて対策を頑張っていく」と話した。